

富士川中流域 アユを育む・清流プロジェクト

第五回検討会（書面開催）

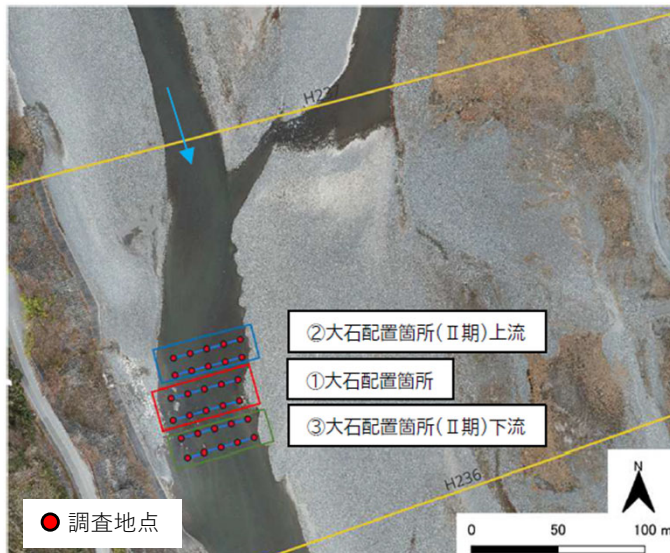
資料－1 令和7年度の活動報告

令和8年3月12日

富士川における調査・対策

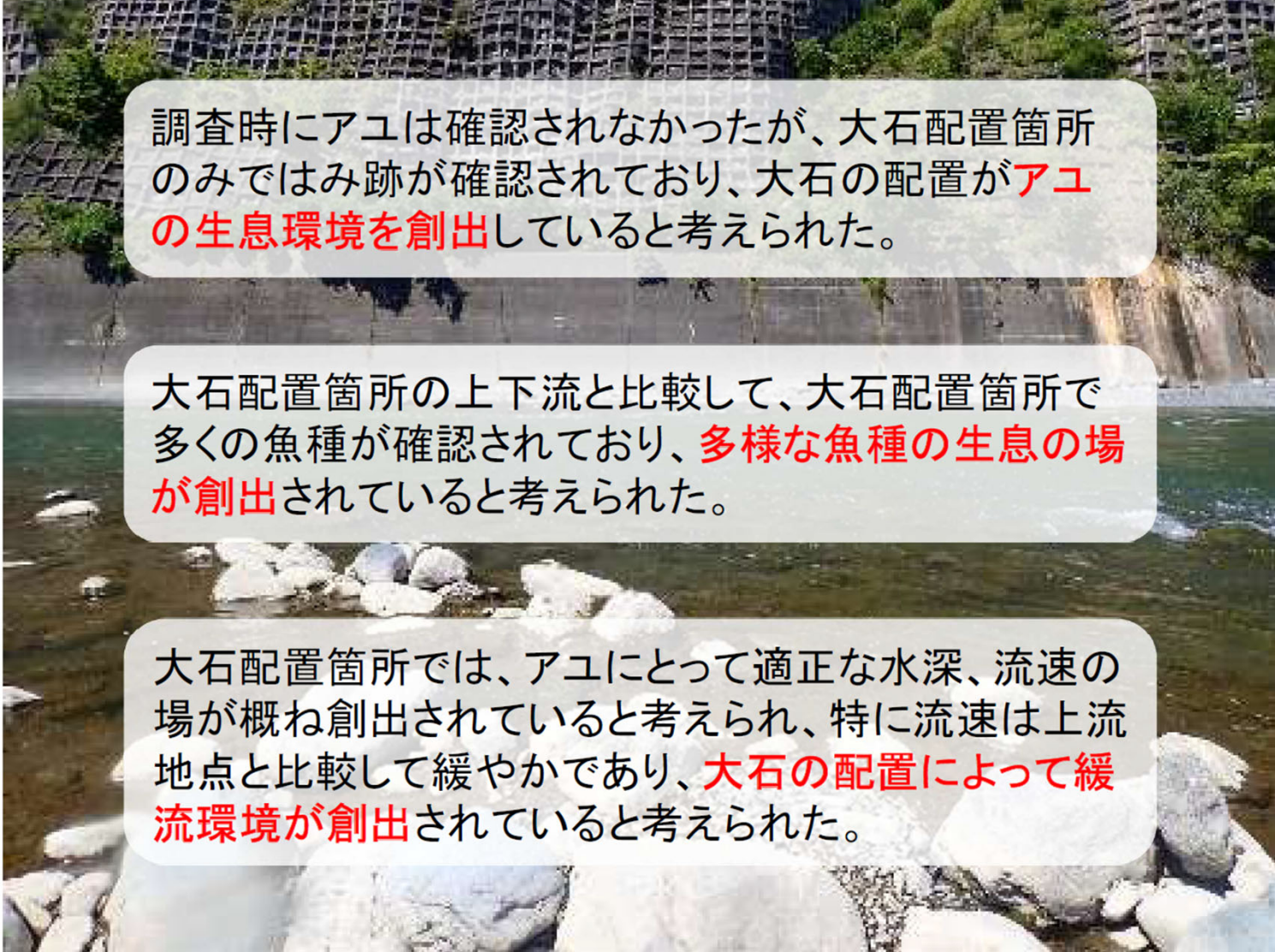
(国土交通省)

- <流量調査> 経年的に大きな変動は見られない。
- <水質BOD調査> 概ね環境基準以下で推移している。
- <水質DO調査> アユにとって望ましい値を満足している。
- <水質SS調査> 自然濁水の長期化によるアユへの影響が課題。
- <水質pH調査> アユにとって望ましいとされている範囲を超えている。
- <水温調査> 経年的にアユの適温範囲内であるが、釜無川、笛吹川の夏季の水温がやや高い傾向にあった。
- <大石配置モニタリング調査> 大石の配置による緩流環境の創出により、アユの食み跡が多数確認された。



アユの食み跡

<調査結果の評価>

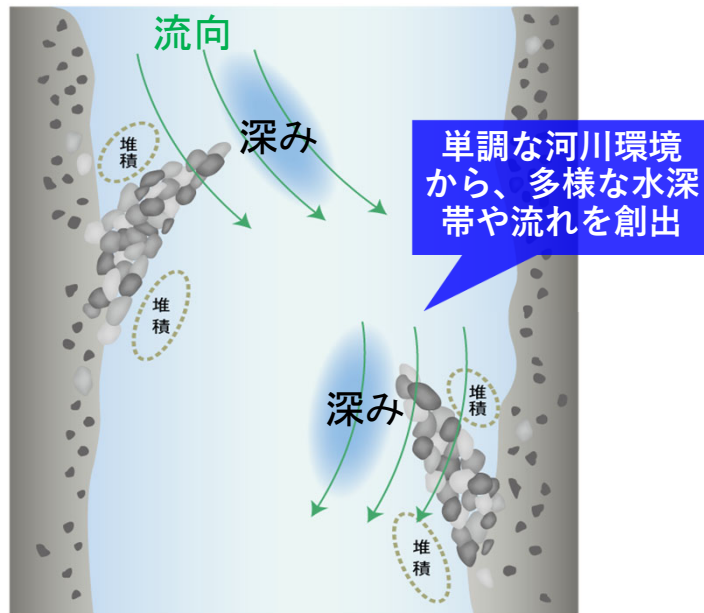


調査時にアユは確認されなかったが、大石配置箇所のみではみ跡が確認されており、大石の配置が**アユの生息環境を創出**していると考えられた。

大石配置箇所の上下流と比較して、大石配置箇所では多くの魚種が確認されており、**多様な魚種の生息の場が創出**されていると考えられた。

大石配置箇所では、アユにとって適正な水深、流速の場が概ね創出されていると考えられ、特に流速は上流地点と比較して緩やかであり、**大石の配置によって緩流環境が創出**されていると考えられた。

- <アユ生息実態調査> 弁天橋付近ではDNAが検出されていないため、樽坪魚道より上流にはアユが遡上していない可能性が高い。
- <アユの餌環境調査> 早川全体としてみると付着藻類の現存量は少ないが、一部エリアにおいてアユの餌環境としての質は良好であり、環境条件が整う場では「良好な餌環境」が限定的に成立していることが示唆された。
- <対策報告> 「浚渫で発生した巨石」を活用したバーブエ※周辺が「緩流域を好む魚種や稚魚の生息場」として機能していることが示唆された。



※バーブエとは・・・河岸から上流側に突き出した水制工のような構造物。

富士川中流域の本川と支川の接続部における新たな調査 (山梨県)

< 支川連続性確認調査 >

○目的

- ・「富士川本川の濁りが長期化した際のアユの逃避場所」として、支川のポテンシャルを把握する。

○調査河川

- ・54支川のうち、アユの生息環境が比較的良好に形成され、アユの生息情報や放流実績を有する河川を対象とし、富士川、戸栗川、船山川、波木井川、椿川の5支川を対象に現地調査を実施。
- ・過年度に現地情報を収集済みである早川、佐野川を除く、その他47支川は空撮写真等を基に状況を整理。

○調査結果

- ・現地調査を行った5支川は、富士川本川との接続部に限って見れば、アユの遡上経路は維持されていたが、船山川および戸栗川は、本川との接続部の直上流に存在する落差によって、本川からの安定遡上が実質的に困難と想定されるため、現状は「本川からの逃避場」としての機能は低いと考えられた。
- ・その他47支川は、三面張りの護岸や水路の様相を呈するなど、河川環境が単調な河川が多く確認され、アユに対する環境収容力は低く、「本川からの逃避場」としての現状機能およびポテンシャルは低いものと考えられた。

河川美化活動（早川町）

- R7.4月下旬 空き缶拾い等
- R7.7月18日 除草
- R7.10月2日 ゴミ拾い
- PRチラシの配布

河川美化活動（身延町）

- R7.6月下旬 町内美化活動
- R7.11月 富士川クリーン活動（雨天中止）
- 自然環境監視員による不法投棄の監視
- PRチラシの配布

河川美化活動（南部町）

- R7.5月 釣り大会（漁協との連携事業）
- R7.7月 除草
- R8.8月11月 清掃活動
- PRチラシの配布



チラシによる広報啓発活動

■ アユ関係調査

- ・ 魚種調査、遡上状況調査

■ 河川内工事の際に関する配慮

- ・ 濁りに配慮した河川内工事の計画

■ 魚道の維持管理

- ・ 魚道上流部の瀬替え作業
- ・ 魚道補修作業

■ 河川環境の美化活動

- ・ 早川町、身延町、南部町と協同による河川清掃及び除草作業

